

令和6年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『雪室による地域産業のリブランディング』

活動団体の活動地域	： 山形県西川町
活動団体名	： ツキノワ合同会社
中間支援主体名	： 西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

# 活動団体と地域の紹介

## ツキノワ合同会社

- ・ 2023年5月設立（代表の伊東が同年3月に東京から移住）
- ・ 建築設計やまちづくりをはじめ、地域課題解決に向けた各種事業を行う



Nishikawa  
Innovation Hub

TRAS

- ・ 町民や関係人口とのワークショップを通して0からのスタート
- ・ コワーキングスペースやシェアキッチン、キッズスペースなどの複合機能
- ・ 地元の木材を使った3次元フレームによる森のような空間
- ・ 企画、設計、運営のすべてのプロセスに一気通貫で携わる

# 活動団体と地域の紹介

山形県の**ほぼ中央**に位置。  
月山や朝日連峰を要する  
日本有数の**豪雪地帯**。  
(隠れ積雪日本一！)

## 基本データ

総面積 : 393.23km<sup>2</sup>  
人口 : 4606人<sup>1)</sup>  
高齢化率 : 47.9%<sup>2)</sup> (県内1位)

※1)令和6年5月時点  
※2)令和4年10月時点



# 活動団体と地域の紹介

## ■地域の現状・課題・資源について

- ・ 人口減少と超高齢化が喫緊の課題

→令和5年度は町制75年で初めて社会増減0を達成！

今後は人口増加を目指して移住定住促進と関係人口拡大に挑み続ける

- ・ 苦手分野である第一次産業の底上げ

→8割以上が森林のため限られた農地での高付加価値事業（ex.啓翁桜など）

- ・ 成長分野である第二次産業の強化

→地ビールやワイン、日本酒の競争力増強

- ・ 得意分野である第三次産業の多角化

→他地域との差別化を図る豪雪を生かしたツーリズム推進



雪室による地域産業のリブランディング

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

西川町の最大の特徴であり最大の悩みでもある雪をサイトスペシフィックな資源として活用することで、地産製品の付加価値向上や地域独自のツーリズムにつなげる。これにより新たな仕事と収入源を確保すると同時に、地域全体の持続可能性を高めることを目標とする。

## 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

地元の農家や醸造業者、食品加工業者、観光事業者などと連携することにより、各事業者のニーズを明らかにするとともに雪室の活用ポテンシャルについて議論する必要がある。その際にはまず先進事例の調査を行うとともに、本事業の独自性を的確に位置づけることが重要である。

## ローカルSDGs事業として取り組む内容

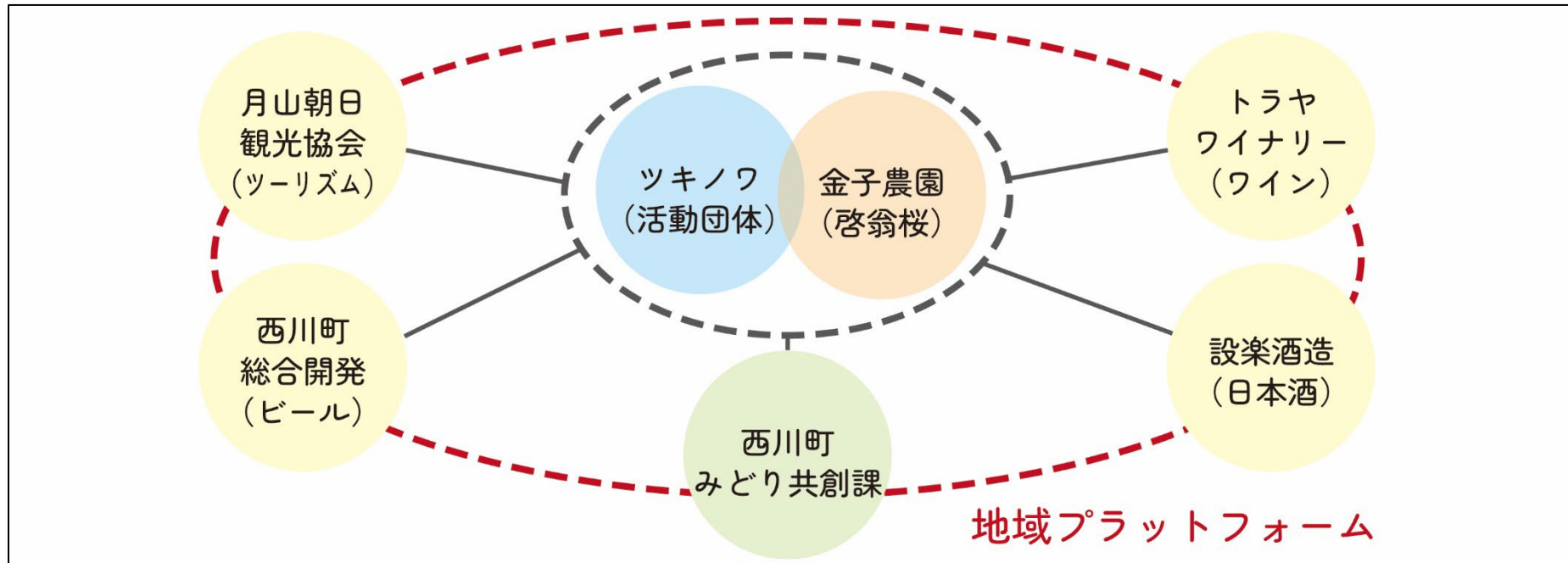
- 雪室による雪の資源化と除排雪コストやCO2排出の低減
- 雪室ブランドの確立による製品の高付加価値化と競争力強化
- 一年を通して雪を体験できる豪雪地ならではのツーリズム開発
- 雪室を通じた多様なプレイヤーによる地域産業ネットワークの構築

## 地域の現状

人口減少と超高齢化が最大の課題であるが、近年の抜本的な取り組みにより改善傾向にある。これをさらに推し進めるためには、豪雪を資源としてポジティブに捉えるパラダイムシフトが求められる。

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制



足りない資源 (ヒト、モノ、資金、情報、等)

地域内：副業としてのスモールビジネス (兼業農家など)

地域外：雪室を活用して付加価値向上を図りたい事業者 (場所貸しによる利益)

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

- ・雪室が完成し運用可能な状態にあること。
- ・個々のステークホルダーやステークホルダー同士の協働において雪室を活用した具体的な事業が実施可能な状況にあり、かつ販路や顧客の開拓が進んでいること。
- ・事業全体をまとめる雪室ブランドが構築され、統一的なデザインのもとプロモーションできる状態にあること。

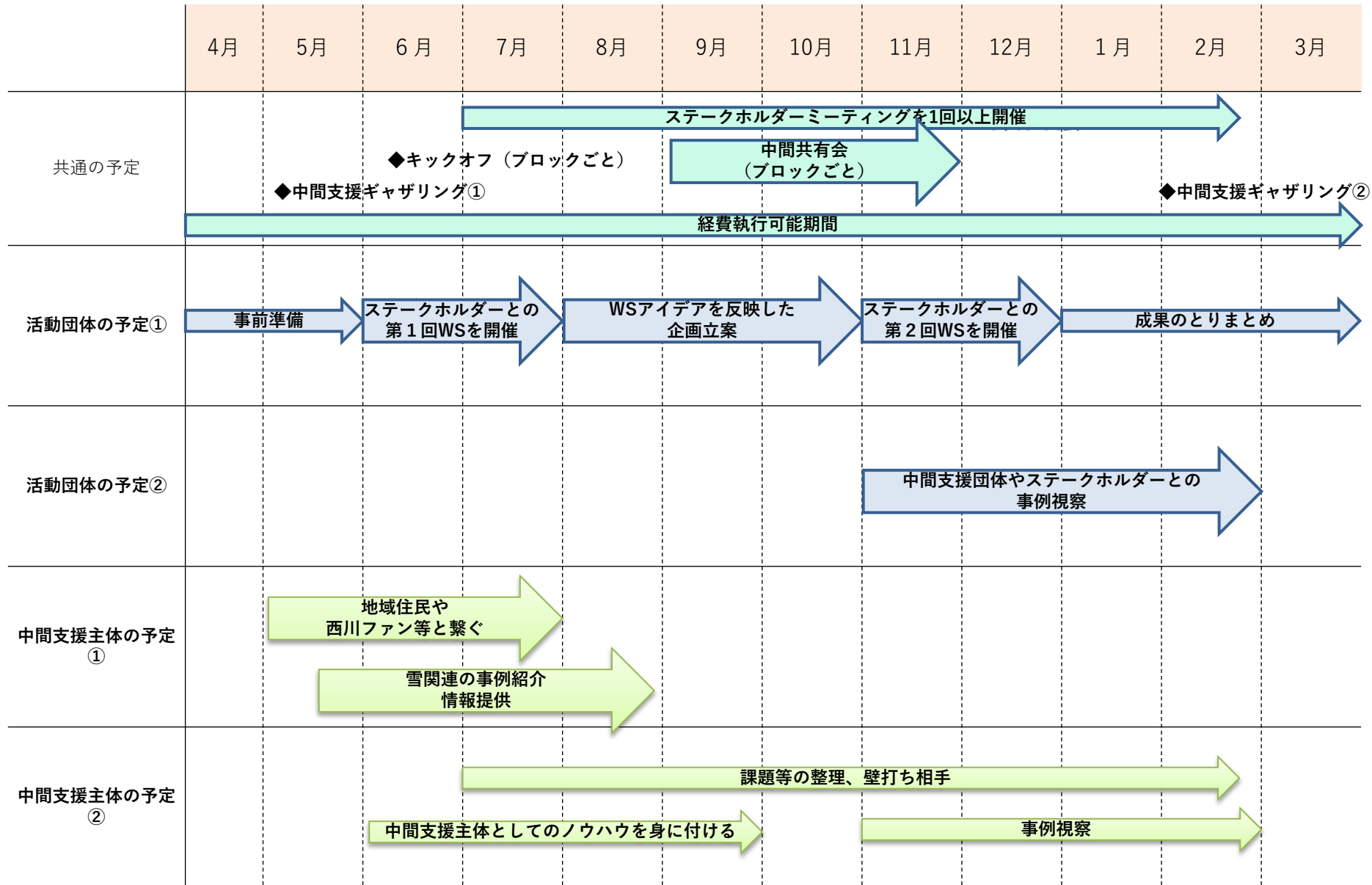
## 2025年度末の状態目標

- ・個々のステークホルダーと協働して雪室を活用した具体的な商品開発などのアイデアづくりが実施されていること。
- ・ステークホルダーの横のつながりにおける協働事業の可能性が検討されていること。
- ・雪室に求められる詳細条件を反映した建物の設計を完了していること。
- ・雪室の実現に必要な財源の確保ができていること。

## 2024年度末の状態目標

- ・現状よりも多くのステークホルダーを発掘し、かつステークホルダーとの連携ネットワークが構築されていること。
- ・雪室を活用したリブランディングの方針が共有されていること。
- ・雪室に求められる立地、規模、空間的プログラムなどの基本的な条件が整理されていること。

# 活動計画





# 中間支援主体より

## 中間支援主体の紹介

### ■西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

- ・活動エリア：山形県西川町
- ・ミッション：西川町の厳しい自然環境や大自然の恵み、豊富な森林資源、観光資源を活かすとともに、人やその人の想いを繋ぎ、地域課題解決に資する。かつ、継続的に地域資源を活用したイノベーションを創出し、持続可能な地域を作ることを目的に活動している。

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

- ・主体的に行動できる団体であり、移住者の視点や設計等の専門知識を活用して持続可能な地域に向けた取組みとなることを期待している。
- ・活動団体と共に課題を整理したり、ステークホルダーになり得る地域住民や西川ファンとの橋渡し、行政との調整などの支援を計画している。